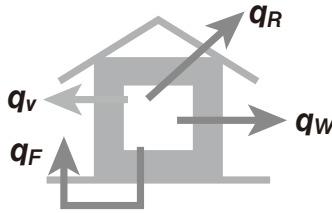


# 改正省エネ基準2013 正誤表

◎ 028頁 ◎

**正**  
熱損失係数



$q_R$  : 屋根(天井)からの熱損失  
 $q_W$  : 壁・窓からの熱損失  
 $q_F$  : 床からの熱損失  
 $q_V$  : 換気による熱損失

熱貫流率

$$Q \text{ 値} = (q_R + q_W + q_F + q_V) \div S$$

$W/m^2K$   $床面積$

◎ 036頁 ◎

(a)~(e) の表の単位

$(m^2K)/W$   
 $(W)/(m^2K)$

**正**

$(m^2K/W)$   
 $(W/m^2K)$

$(m^2K)/W$   
 $(W)/(m^2K)$   
 $(W)/(m^2K)$

**正**

$(m^2K/W)$   
 $(W/m^2K)$   
 $(W/m^2K)$

◎ 037頁 ◎

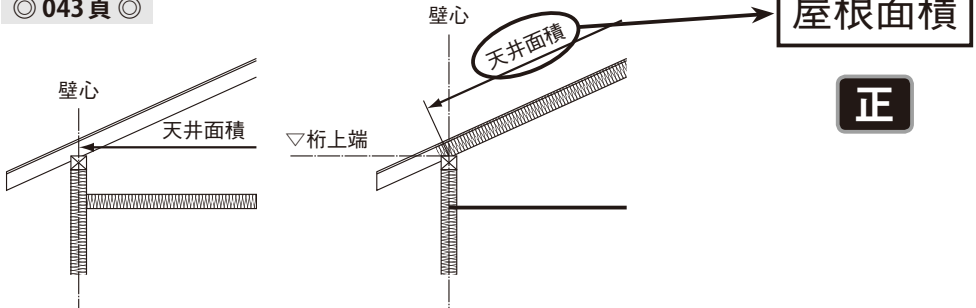
部位の  $U = 1/R$  断熱部 + 補正  $U$

断熱部の熱抵抗値  $(m^2k/W)$   $W/m^2K$

**正**

$(m^2K/W)$

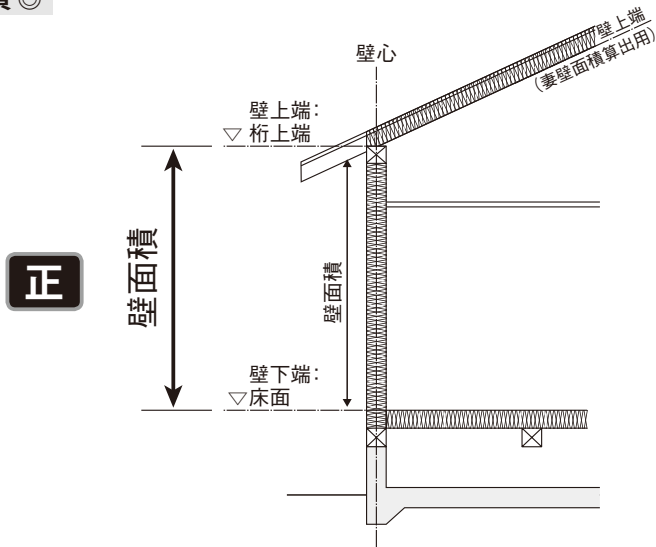
◎ 043頁 ◎



**正**

# 改正省エネ基準2013 正誤表

◎ 044頁 ◎



正

◎ 122頁 ◎

- グラフは、「設計値」の中で、発電などによる削減量を含む場合と含まない場合の2つの他、「省エネ基準値」と「低炭素基準値(省エネ基準値より10%削減、ただし家電は同じ)」が示されます。
- 設計値(発電などによる削減量を含む)は黄色の部分で設計値で、ピンクの部分は太陽光発電が削減した量を示しています。  
※ 建築的な省エネ努力がどれだけできているのかが一目瞭然です。
- 設計値(発電などによる削減量を含む)が、省エネ基準値より小さければ合格となります。
- また、低炭素基準値より設計値(発電等による削減量を含む)の黄色の部分不合格が小さいので、認定低炭素住宅にも不合格となります。

正

合格